



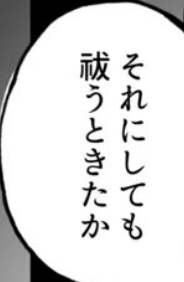
大妖怪・玉藻前！
貴様の狼藉も
これまでだ！




醜悪極まる貴様の命
この場で祓ってくれる！



これはまた：
男とは思えぬ程
随分と見目麗しい
陰陽師だな



それにしても
祓うときたか



はてさて
どうしたものかな



妖狐の尾には
催淫効果があつてな
男女問わずたとえ老人でも
発情させる

はははっ
男のくせに
気娘のような反応をする

勝てぬまでも
せめて男としての
矜持は保つてみせるよ

おっといかにいかに

この玉藻前の尾ともなると
中々加減が難しくてな
一步間違えば廃人だ

それに私も
あまり無理矢理
墮とすのも
好きではない

お前から
望んで

墮ちろ

しゅる...

さあ

な、なんだ
この体…っ

ダメだ…
目が逸らせない…

存分に
私を求めろ

妖狐の体とは…
こんな…っ

私の心が
墮とされる…っ

ガンム…

だ、だめだ…
だめなのに…

むわあ…

体が…
本能が逆らえないっ

~~~~っ♡♡♡

キィ  
ー  
ゅ

ううん♡

そうだ  
そのまま我が乳房に  
身を任せよ

モロ♡

妖狐の乳房は  
凶器にもなり得る

それを  
その身で味わうといい

……っ♡

むに♡

さら  
乳房で犯してやる

な、なんだ  
これは…♡

すー…  
はー…

情欲を掻き立てられる  
心地よい肉感

少し汗ばんでいて  
そこから発せられる  
いやらしい淫香

むわわ  
ああ

この胸は…

胸ではない

はあ…♡

はあ…♡

！  
こいつ心を…

「胸」ではなく  
「おっぱい」と言え

な、貴様…

なんだ  
乳房に犯され  
喘いでいた  
情け無い男が  
今更  
なんの強がりだ？



ふふふっ  
随分と幸せそうだな？

お、おのれ…♡

わ…私は…  
貴様なんかに…♡

こんな…  
お、おっぱいなんか  
屈したりは…っ

とろん♡



れろ♡  
ん♡  
ちゅる♡

ちゅる…♡



ギゅぶ

はははっ  
絶頂したか

びる♡

びる♡

触れても  
もらえずに  
惨めなイチモツだな

なんという…  
多幸感…

なんという…  
快樂…♡



か、カリカリ…  
するなあ…っ♡

んああっ♡

びん♡

カリッ♡

贅沢なやつめ  
妖狐の尾でイチモツを  
弄られるなど  
人間では再現できない  
至極の快樂だぞ？

ふふふつ  
あまりに惨めなのでな  
少しは触れてやろう

ではいっそ  
こんなのは  
どうだ？



んおおおっ!?!♡

びびる♡

ちゅ♡

尾で包まれてしまうと  
もはや女性器をも凌駕する  
極楽だろう？

射精が  
湯水の如く  
ダダ漏れではないか

びびる♡



し、しぬう……

蕩けすぎて…  
あ、足に力が  
入らぬ…♡



び

ら



♡♡♡♡



な、何を...

陰陽の  
私の子を  
孕む気は無いかな？

我が妖術によって  
その身もメスに  
してやれるぞ？

この魔羅も  
妖術によるものだ

ふ、ふざけたことを  
ふざけているのはお前だ



なにをときめいている

びるっ

男の身でありながら  
この魔羅を見て  
欲している男など  
もはや男ではない



孕みたいのだろうか？

無いはずの子宮を  
腹の奥底で感じ  
排卵しているとさえ  
錯覚しているのだろうか？

はーはー

屈するものか…!!

私は男だ!  
貴様のような化け物に  
この心も体も  
1寸たりとも  
くれてやるものか!

そうか?

びよ…

…く

な、なんだ…っ!?

先ほどの接吻の時  
唾液に「妖狐化の術」を  
混ぜ込んでおいたのだ

怖がる事はない  
妖狐の体は  
快楽に溺れるために  
あるような  
最上のメスの体だ

溢れんばかりの  
性欲がちと厄介だが  
今以上の快楽を  
味わえる

しかしおかしいなあ?  
発動するには  
対象が心底孕みだがつている  
ことが条件なのだが…

ば、バカな…っ  
そんなはずは無い

この私が…  
お前の魔羅に  
思いを馳せるなど…っ

びよ…

びよ…

びよ…

新しい…  
いや

いっ  
ちゅ

や  
やめ

本来あるべき姿となった  
お前のその体  
そのメスとしての性  
その身でとくと味わえ

なんとという快感…  
まるで自分の体では  
無いような…♡

この魔羅に  
犯されるためだけに  
存在するとさえ  
感じるこの体♡

胸はおっぱいに  
変わりゆき…

イチモツは機能を失い  
勃起さえ  
出来なくなりつつある…

ツ  
ツ  
ツ

ちゅ  
ちゅ  
♡

おおこれは素晴らしい  
中々にいい具合だ

口では  
なんとも吠えようと  
中は娼婦の如く  
啜えこんでくる

生まれながらにして  
敗北することが  
決していたような…

この魔羅に  
支配されるという  
充足感♡



あ  
あ  
あ



全てが気持ちいい♡



男？

おとこ？

私が？

気娘のような  
声をあげながら

魔羅を  
堪能している  
この私が…？

男？



堪えろっ♡

心を保て…っ♡

男で在ったことを  
忘れるなっ♡

…



さあ言え  
お前は何だ

そうだ…  
私はただ偶々  
男の体として  
生まれただけ

本当の私は…

…ははは

私は何を勘違い  
していたのだ

がちゃがちゃ♡



私は

私は御身のメスに  
ございます!♡♡

どうかっ  
この身を妖狐に変えて  
下さいませ!♡♡



ははっ  
よく素直になった

では褒美だ

妖狐に変わりゆくその身で  
我が精液を受け止めよ

あああああ♡♡



今日がお前の  
新しい誕生日だ

私のメス狐として  
よく励めよ

